

助成事業実施報告書

団体名 地域食堂おいまつ

代表者・役職名 氏名 理事長 津田豊郎

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

「とも育ての」の発信場所をめざして

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

食を利用した活動をする中で、子どもの貧困問題だけではなく、保護者の方の子育ての悩みや、孤独感、孤立感に触れるなか、繋がりあう場が必要と思いました。保護者が孤立した子育てに陥らないように、地域で子どもを育てる「とも育て」の場所をめざし、「食」を利用した活動を展開しています。ボランティアさんは、地域住民・大学生・小中高校生・企業ボランティアさんなど、様々な世代の方にお手伝い頂いており、お互いの顔が見える場となり、「とも育て」の実践場所として活動できました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

助成期間中 計9回の利用者数は、500名(未就学児 80名・小学生 176名・中学生 50名・高校生 23名・保護者 206名・ボランティアさん 111名)です。

ひとり親家庭等、サポートを希望する世帯向けに、令和5年10月からチェリッシュ弁当の日を設け、17時から21時まで対応する活動を新たに始めました。「居場所」と「居場所+支援」を分けることにより、限りある食材を必要な方にお渡しし、一人ひとりの状況に応じて寄り添える活動に繋がる成果がありました。

また、それらの活動によって、ひとり親さんや、外国人世帯、サポートを必要とする世帯の新規の登録や、行政との連携も増えるなどの効果がありました。

活動の継続が認知度に繋がり、子ども対象の他団体との連携にも繋がる動きがあります。また、名古屋中警察署による「ヨリドコロ」というハンドブックが制作されました。名古屋市中区の小中学校を含め、様々なところに配布されますが、中署の職員が掲載の為、1件ずつ子ども食堂に足を運ばれ取材をし、中区の子ども食堂を写真付きで掲載されるなど、安心して繋がる事が出来る場として紹介されました。

3月14日に行われました名古屋市の子ども食堂フォーラムでは、活動の発表させて頂きました。これは「とも育て」を発信してきた成果だと考えています。

資金の心配なく、活動に取り組みましたこと、心より感謝お礼申し上げます。ありがとうございました。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

外国人に対するコミュニケーションの取り方。外国には無い子ども食堂の活動を、日本語の理解が乏しい方に、趣旨を理解してもらったり、活動の案内を伝えたり、利用のルールを伝えるのに、根気と時間がかかります。コミュニケーションを円滑にし、国籍を超えて「とも育て」の場所になっていくのが今後の課題です。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください





nakakushakyo
上前津付近

